



神奈川県安全赤十字奉仕団

安全だより

平成 28 年 12 月 発行
第 111 号

◆赤十字奉仕団役員等研修会

「東日本大震災から5年、今そしてこれから」

「こんにちは。いわき市立好間第一小学校長の松本 光司です。大震災の時には沢山の皆様へ支援して頂きました。感謝の気持ちを込め、話をさせて頂きます。

「2589人、福島県では203人」これは東日本大震災後、まだ行方不明の人の数。福島、宮城、岩手の3県では、発災した11日を月命日とし、毎月、遺体の捜査を行っている。9月に宮城で歯の欠片が見つかり、遺族の元に帰る事が出来た。

2589人の家族は、もしかしたら...と、諦めきれない日々を過ごしている。5年過ぎたが、まだ続いている。これが今の3県の実態、大震災の時の様子。

久ノ浜には8mの高さで長さ3kmの波が押し寄せた。凄い威力で破壊し持っていく。岩手の三陸は入江の為、倍増し最大で12mの高さの津波が3kmにわたり甚大な被害をもたらした。

発災すぐの波は、凄い勢いで押し寄せ、車が持ち上げられ、ゴウという波の音と、ガチンガチンと物がぶつか

る音が町中に響き、波がうねる。7m位で家も傾き、動き出す。車も沢山流され、町中に波しぶきが立ち、モヤの様になった。波が引くと家の中にある物が全部、瓦礫となる。

久ノ浜の被害を大きくした原因は火災。プロパンガスがバンバンと凄い勢いで弾ける音が聞こえた。避難所だった中学校の体育館には、1000人以上、教室にも1000人が入り、足を伸ばす事も出来ず、座ったままの状態で一晩を過ごした。

翌朝、原子力発電所が危険と自主避難命令。原発から離れた所へ二次避難。僕のいた久ノ浜小学校は、原子力発電所から30km程度の所にあり、津波の被害はないが、強い振動により、久ノ浜地域の地盤が約20cm沈下し、段差が出来た。床柱も崩れ、校舎の後ろでは液状化が始まったとして、放射線量が5.3マイクログロシーベルトと、

基準値の何千倍という高い数値。子供は戻せないと、間借りの学校生活。子供達は、トイレに行くにも、その学校の子達の後ろに並び、子供が子供に気を使っている。過ごしていた。

除染作業と講習会を同時に進行、10月11日に学校を再開。凄く過酷な状況だったが、子供達は、学校に戻ってきた。しかし、双葉地区の子は5年前の3月11日に家を出てから一度も家に入れない。多分、一生自分の家に帰れない。そんな子もいる。

気持ちの復興を感じたのは、七夕。今まで自分の事しか書かなかった子供達が、家族、友達、4割の子供が人の事を思う願いを持っていた。翌年も人の事を思う願いが多く、なかなか自分に立ち返れない。

3年が経つと、「東京オリンピックに出たい」、「プロの選手になりたい」と書くようになった。たくさん支援して頂き、特にありがたかったのは、全国の子供たちと同じ様な活動をさせる事に協力頂いた事、そして「私も頑張るから一緒に頑張ろう」のメッセージ。今年4月には熊本益城町で地震。14日の午後9時26分以前震、翌日の午前1時に震度7の本震が起きた。

9時27分のまま止まった時計を見た。

「この時計を動かすのは皆さんの気持ち。時間を止める事なく前に進んで頑張りましょう」と話した。

今は色んな所で災害が起こると言われ、絶対に無邪気な笑顔でいなきゃいけない子供達が、時々不安な表情に。これが今の時代の子供達。

この子供達を笑顔に変えるには、正しい災害の知識と正しい行動が出来る事が大事と、機会がある毎に防災の大切さを話している。

今いる所で災害は起きないかも知れないが、起こりうる災害について知らないと思えば命を落とす事になるかも知れない。災害について、正しい知識と行動を身に付けなければいけない。

災害は、皆が当事者になる。「災害で被害を受けた人」と「災害で被害を受けた人を助ける人」行動するかどうかの違いである事を覚えていて欲しい。人は色んな体験をし、成長していく事が凄く大切な事。

震災を経験した子供達が、たくましく優しくなり、それに後押しされて大人は頑張れるようになった。

気力の無い大人達、どうして良いか分からない大人達に、力を与えたのは子供達だった。皆さんもそれぞれの地域で沢

の力になっていて素晴らしいと思う。

是非、仲間を増やし、そして自分のやっている事を子供達に伝え、素敵な大人の背中を沢山、子供達に見せてあげて欲しい。

沢山の支援を頂き、ありがとうございました。そして今日はご清聴頂きまして有難うございました。

「参加者の感想」

- ・とても勉強になりました。
- ・一瞬の判断で生死を分ける震災の怖さを改めて感じました。
- ・災害は皆が当事者。という言葉が印象的でした。
- ・防災には備える事だけでなく、伝える事も大切だと知りました。
- ・ぜひ、次回は皆さんも参加してみてください。

◆「第十九回横浜Y M C A インターナショナル・チャリティーラン」に参加して

「第十九回横浜Y M C A インターナショナル・チャリティーラン二〇一六」が十月十五日(土)に横浜みなとみらい二十一地区(臨港パーク特設コース)で開催され、安全奉仕団は「救護所」ブースを開設いたしました。

当日、参加団員は十三名。



やる気 MAX!!

私は昨年に引き続き参加させていただきました。当日はこの秋、最高の雲ひとつない絶好のイベント日和でした。Y M C A とはキリスト教を基盤とする団体で、青少年はもとより障がい者とあらゆる年代、性別、宗教の人々がかかわっており、百十九の国と地域にひろがる国際団体、その中の使命のひとつに「一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし、痛みを分かち合う社会をめざします」を掲げ日本をはじめ世界各国で活動しているそうです。

競技内容は臨港パークに設定されたAコース(一人が1100m、障がいの有無にかかわらず、日頃の体力に自信のある方)、Bコース(一人800m、小学生以上のチーム)、Cコース(一人チームにつき300m)で参加者全員が未就学児のみで駅伝方式で行われました。



みんなで配置確認

●●さんの陣頭指揮により「救護所」(本部)は●●さん、Y M C A から二人の女性が配置、他の団員はスタート、リレーゾーン、折り返し地点に、担架と毛布を準備し発生に備えた。救護状況は、競技開始直後に十九歳の男性が昨日から風邪気味で今日のために無理に参加したため咳をすると胸が痛いということでした。上司らしき方と来所、早速、●●さんが応急処置を施し、帰宅して他に、幼児二名、成人女性二名が擦り傷、虫刺され、靴擦れで来所いたしました。が、休養するよう勧められました。いずれも応急処置をされ幸い大したことなく終わりました。参加された団員のみなさん大変お疲れさまでした。

◆体験取材 「ライトセンターフェスティバル」

取材報告

今年の「ライトセンターフェスティバル」は昨年の雨とは違い秋晴れのいい天気でした。そして今年より時間が一時間ほど短い15時まででした。さて、ライトセンターフェスティバルと言えば、お料理クラブの豆腐ケーキと思いい、一番で買いたい行ったのですが、いつもの場所にない。

2、3階も館内を全て回って外の屋台村も探してもない。ないない。こ、これはと思いい聞いてみると、今年には出展してないとの事でした。残念でした。また食べたかったなあ。来年期待です。

安全奉仕団ブースが落ち着いた頃、点字体験に行きました。



イベント日和



てんじのてんじ!?

点字体験は実際に点字を打ち、視覚障がい者の方に読んで貰う体験です。これが凄く楽しく、プチプチ穴をいっぱい作りすぎ文字にならない始末：気を取りなし名前だけをプチプチし、読んで貰う事に成功！！次に向かったのはワンコインマッサージ。これは私の癒しです。今年も癒して頂き、ありがとうございます。来年も是非、お願いしたいです。普段はライトセンター地下で絶賛営業中です。是非来て下さい。との事でした。



みんなでキメポーズ

さて、お昼は世界の料理の屋台村はどうでしょう、今年タイラーメンを頂きました。タイラーメンは米の麺を使い作っているようです。凄くあっさりしている感じが、ブースで話し過ぎ、荒れた喉にも優しい味で、何杯でも食べられる感じでした。

まだまだ体験できてないブースがあります。是非、皆さんも来年は参加してお気に入りのブースを見つけて下さいね。



◆第一話トランポリンとの出会い

赤澤 精二

ある日、市のブレザーを着た人が二人職場に来て「お願い事があります」と尋ねてきました。よくよく話を聞いてみると新しく市のスポーツセンターを建てトランポリンを整備して活用するにあたり講習会を企画したのですが、募集しても人が集まらないので市の職員に参加募集に回っているとのことでした。昭和62年のことですからトランポリンと言えば百貨店の屋上にある子供が跳んで楽しむよ



宇宙飛行士な気分!?

うなものしか思い浮かばず、大人が本格的に跳べる器具と聞いて思わず心が動いて「参加します」と安請け合いをしたのがトランポリン人生の始まりでした。思えば私の人生安請け合いをしてしまったことで人生が大きく変化してしまっていることに改めてこの機会に思い当りました。日赤に関わることになったのも、消防学校で日赤の救急員の資格を取得したことからの、この資格を継続するにはどのようなしたらよいのか知人に聞いたところ「指導員の資格を取ったらいいのよ」と軽く言われたので、支部に申請して四泊五日の指導員養成講習を受講したのですが、他の受講者とレベルが違い過ぎて、ほとんど私は寝ないで勉強や実技を行い、「やっとこさ」指導員資格を取得させてもらって



ジュニアトランポリンカップより

現在に至っています。我ながらなんとも軽はずみな人生を送っていると感じます。トランポリンの講習を受けて驚いたことは、運動神経の鈍さを認識したことでした。これまで、様々な球技を経験してきた運動神経には少しは自信があったのですが、トランポリンで完全に打ち砕かれました。何とほとんどの受講者が6回の講習で習得したことができなかったのです。今、子供たちに同じことを教えると3回くらいでやってくれます。しかし、考えてみると、この自信喪失が心に火をつけたことで、今まで続いているようにも思えます。講習会では、基本的なことを教えてもらえばかりでしたが、

それでも空中でいろいろな姿勢をすることが楽しく感じられました。終了後には、スポーツセンターの職員が受講者を全員集めて、サークルをつくって継続的にトレーニング活動を行ってほしいとの話で受講者から反対の意見はありませんでしたが、職員から「サークルの代表をどなたかにお願したいのですが」と切り出されて、勿論、私はやる気は毛頭ありませんから成り行きをみながら、「早く誰か引き受けて帰らせよ」と心の中で叫んでいたので、5分経っても、10分経っても誰も名乗りを挙げませんでしたが、いい加減にしびれを切らした私は、「私がやりますから、早く帰してください。」と口に出してしまいました。この後のドジと苦労話は、機会がありましたら、また、寄稿させていただきます。乞うご期待

年末年始街頭献血 協力ボランティア募集一覧

会場	日付	受付時間	
イオンモール大和	12月23、29、30日 1月2、3、9日	10:00~12:00 13:30~16:00	
海老名中央公園	12月23、25、28、29日 1月3、5~7日		
イオン秦野店	12月24、29日 1月9日		
平塚駅北口	12月24、27、28、30、31日 1月4~7日		
ダイナシティ・イースト	12月24、29~31日 1月2、4、8、9日		
JA さがみ茅ヶ崎支店	12月24、28日 1月5~7日		
プラス小田原ティモール	12月25日		
本厚木駅	12月25日		
OSC 湘南シティーモール	1月3日		
ららぽーと海老名	1月8日		
瀬谷駅北口	1月9日		
大船駅北口 笠間口	12月23日		10:00~11:30 13:00~16:00
新百合ヶ丘駅	12月28日 1月5、7日		
東急武蔵小杉駅東口	1月9日		
イトーヨーカドー湘南台店	12月29日	10:00~11:30 13:00~16:30	
鶴見駅東口	12月30日 1月4日※		
港南台駅裏	12月31日		
JR 桜木町駅	12月24、25日		
横須賀中央駅	12月23~25、28~31日 1月3~7日※		
イトーヨーカドー上永谷店	12月25日 1月8日※	10:30~11:30 13:00~16:30	
センター北駅	12月23、29、30日 1月3、9日※		
湘南台駅西口	12月25日	10:00~12:00 13:30~16:30	
京急上大岡駅 バスタミル前	12月23日	10:30~12:00 13:30~16:30	
相鉄ジョイナス	12月23~25、28~31日	10:30~12:00 13:30~17:00	
	1月2~4、6日	11:00~12:00 13:30~17:00	

協力日の4日前までに直接、青少年ボランティア課に連絡してください。電話:045-681-2193

※この日の午後はPM13~16時まで

お知らせ

平成28年度赤十字奉仕団上級
 テックアップ研修会が開催
 されます。

参加ご希望の方は、平成29年
 2月1日までに委員長にご連絡
 をお願い致します。

開催日
 平成29年2月18日(土)
 10時~16時30分

会場
 日本赤十字社神奈川県支部
 6階会議室

編集後記

献血の募集は個人申し込みと
 なります。
 是非、ご協力お願い致します。

発行責任者 赤澤精二
 広報部長
 広報部